View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Kanagawa Dental University Repository

論　文　内　容　要　旨

Three-dimensional morphological characterization of malocclusions with mandibular lateral displacement using cone-beam computed tomography

下顎側方偏位を有する不正咬合症例の CBCT による三次元形態の特徴について

神奈川歯科大学大学院歯学研究科　　全身管理医歯学学講座
研究生　Roberto Luis Velasquez Torres

（指　導：　　玉置　勝司　教授）

論　文　内　容　要　旨

本論文は、下顎側方偏位症例の顎顔面頭蓋の骨格と歯列の形態的特徴を知る目的で、CBCT の三次元画像を分析し検討を行ったものである。

方法および材料として、下顎側方偏位を伴う不正咬合者 40 名より初診時の診断のため採得された CBCT データを使用し三次元画像を構築し、距離的および角度的計測を行うことでその形態的特徴を分析した。

オトガイの側方偏位を参照し下顎側方偏位症例の対称性を検討した結果、臼歯部の垂直的な高径は偏位側が反対側と比較し有意に低く、矢状面に投影した後方咬合平面がより急傾斜になっていた。下顎頭の位置および大きさを検討した結果、偏位側が反対側より内側に位置しており、下顎頭の幅径は有意に小さいことが示された。また側頭骨の位置を検討した結果、偏位とは反対側において側頭骨が前方に回転し内側に位置していた。

下顎側方偏位症例では、オトガイの側方偏位を主体とする下顎骨の非対称が臼歯部の咬合高径の左右差と深く関わっており、咬合様式と顎変形との関わりが示された。また、側頭骨の偏位とも関わっており、これら三次元形態的特徴が成長発育や顎機能と密接に関わっている可能性が示唆された。